

記事掲載：2021年9月

翻訳：2021年10月

アフガニスタンの少女たちに教育への揺るぎない支援が必要 ECW 事務局長、ヤスミン・シェリフ



タリバンがカブールで政権を奪取してからまだ数日しか経っていませんが、アフガニスタンや世界の人々は、タリバンが約束を守り、女子教育が確実に促進・保護されることを注意深く見守り、期待しています。

20年前、1996年から2001年まで続いたタリバン政権下では、女子の学校教育は禁止されていましたが、一部の地域では女子を対象とした家庭内での個人授業が認められていました。2001年以降、アフガニスタンでは女子と男子の学校への就学率が着実に向上し、それに伴い女性教師の数も増えてきました。しかし、長年にわたる改善にもかかわらず、340万人のアフガニスタンの子どもたち、特に農村部の子どもたちが依然として学校に通っておらず、そのうちの60%が少女たちです。

教育を受けて働いているアフガニスタンの女性の多くは、将来への不安から、理解できることですが、8月中に国外へ脱出しようとするチャンスを得ていました。全寮制の女子校が丸ごと避難した例もありました。こんなことが当たり前になってはいけません。アフガニスタンが40年以上の紛争から立ち直り、再統一するためには、人口の半分を占める少女たちへの教育が不可欠であることは、全てのアフガニスタン人がわかっていることです。信仰のあるアフガニスタン人は、コーランの最初の章に「読みなさい」と書かれていること、そしてそれが女子にも男子にも当てはまり、知識がイスラーム教の中心であることを知っています。

国際的な外交と支援双方の動きにより、近年の進展を維持することができるのではないかと期待する根拠があります。また、干ばつに見舞われ1,400万人もの人々が食糧不足に陥り、外国からの援助に大きく依存しているこの国を統治するためには、正統性と善意の両方が必要であることをタリバンの新政権が理解し、政治的にも成熟している可能性があります。国連は慎重ながら楽観的な論見方を示しています。これを示す早い段階の兆候として、国連の人道的支援の輸送が再開されました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、アフガニスタンをはじめとする国々の教育は1年以上に渡って中断されています。そのため、少女たちへの教育を継続するというタリバンの宣言を明確なものにするためには時間がかかるかもしれません。どのような種類で、何歳までの教育になるかが重要な指標となります。8月23日、タリバンのスポークスマンであるスハイル・シャヒーンが、村の学校に通う少女たちの様子を撮影した動画をツイートしました。これは、新政権が昨年12月のユニセフとの合意に従う意思があることを示す兆候であると世界は期待しています。

ユニセフは、“ヘルマンド・サンギーン作業計画*”に、ヘルマンド、カンダハール、ウルーズガーン、ファーリヤーブの各州の「手の届きにくい紛争地域」でコミュニティベースの教育（CBE）の教室を拡大することをタリバンと合意しました。CBEのモデルでは、各コミュニティにある建物（時にはモスク）を利用して、約4,000の教室で10万人から14万人の子どもたちに対応することが可能になります。

*支援が届きにくい地域や紛争地域の子どもたちに、コミュニティによる教育の機会を確保するため、実践的な手順を定めたアフガニスタン政府とユニセフによる技術作業計画 <https://www.unicef.org/afghanistan/press-releases/community-based-education-will-reach-140000-hardest-reach-children-and-those-living>

緊急時や長期化する危機における教育に特化した国連のグローバルファンドである教育を後回しにはできない基金（ECW）は、2016年から、アフガニスタンを含む世界中のコミュニティが、すべての人に教育を提供するための障害を克服するための支援に取り組んでいます。特に学習の選択肢がなく、最初の犠牲者となることの多い少女たちを支援する活動を行っています。

アフガニスタンでは、女性教師の不足が少女たちの教育の妨げになっているとよく言われています。ユニセフ、セーブ・ザ・チルドレン、現地のパートナーとともに、ECWの資金調達活動の焦点は、女性教師がプログラムの60%を占めるようにしています。

教育は、基本的な人権であるだけでなく、命、コミュニティ、社会、そして国を救うものでもあります。教育は、子どもたちが安心して学べる場所を地域社会に提供し、健全な制度、より強い経済、より平和な社会を構築するための枠組みを提供するという重要な役割を担っています。教育を受けた若者は、より良い生活を営み、社会に積極的に貢献することができます。

9月9日に国連が定めた「教育を攻撃から守る国際デー」を迎えるにあたり、ECWは、今後の課題を示す事例が山ほどあることに気づいています。紛争地域の人々の生活を劇的に改善するため、重要な手段として扱われるべきものへの資金が慢性的に不足しています。**ECWとそのパートナーは、この5年間で、30カ国以上の最も困難な危機的状況下にある500万人近くの子どもたちと若者に支援を行い、COVID-19緊急教育対応では2,900万人以上の子どもたちに支援を行いました。しかし、まだ何百万人もの少女や少年が取り残されており、緊急の支援を必要としています。**

教育を攻撃から守る国際デーに関する 2020 年の国連決議は、カタルにより提案され、62 カ国が支持しました。教育を受けることができず、長期にわたる暴力の影響に苦しんでいる 7,500 万人の学齢期の未成年の人々について、注意を喚起するためです。国連総会では、次のように述べられています。「政府は、すべての学習者、特に脆弱な状況にある学習者に対して保護を提供し、あらゆるレベルで包括的で公平な質の高い教育を確保する一番の責任があります。」

この 1 年は、新旧の紛争が世界中の教育に与える影響の悲劇的な例を示しています。世界的な気候危機やパンデミックにより、これらの影響がさらに悪化していることも少なくありません。

アフガニスタン、ブルキナファソ、ミャンマーなどの脆弱な地域では、多くの脅威が同時に襲い掛かってきたため、子どもたちに教育を受けさせたいという夢が脅かされたり、打ち砕かれています。

7ヶ月前にミャンマーで起きた軍事クーデターは、必要とされていた教育改革の計画を突如として崩壊させました。同じ時期、パンデミックによって学生たちはすでに授業を受けることができなくなっていました。貧しい農村部では状況はさらに深刻です。国境地域では、昔からの紛争が新たに勃発しています。学校は爆撃され、子どもたちはジャングルで授業を受けています。

ブルキナファソをはじめとする中央サヘル地域では、さまざまな面で危機が急速に悪化しています。現在、260 万人以上の子どもたちが学校に通っておらず、最も深刻な被害を受けているブルキナファソの 6 つの地域では、初等教育の修了率が 29%にとどまっています。学校には、紛争で家を失った生徒のためのインフラがなく、教材も不足しており、水や衛生設備も危機的な状況にあります。一クラス当たりの人数が 3 倍になり、1 つの教室に 100 人以上の生徒がいるところもあります。

教育は、その国の戦争と分断の悪循環を断ち切り、地域や国際社会の中での課題に立ち向かうための手段を提供する鍵となります。また、このような危機のすべてがメディアのトップニュースになるわけではありません。例えトップニュースになっても、すぐに消え去り、次の危機が取り上げられるということをお忘れではありません。最新の ECW の介入のひとつは、イラクとその周辺国の 20 万人の子どもたちへの資金援助です。

教育に関する資金の割り当ては、人道的資金の 2~4%にしか過ぎません。しかし、危機的状況に置かれた子どもたちの回復力と、質の高い教育を受けたいという彼らの変わらぬ希望が、私たちを前進させ、行動を起こさせるのです。

アフガニスタンの子どもたち、特に少女たち、そして世界中のあらゆる危機的状況にさらされているすべての脆弱な状態にある少女や少年たちを支援するために、ECW は今、官民を問わずドナーからの資金援助を緊急に求めています。彼らの教育を待つことはできません。アフガニスタンはもちろん、紛争や災害で引き裂か

れた他のどの国も待つことはできません。すべての人間が十分に尊重される時が来ています。女の子や思春期の少女たちも取り残してはいけません。団結、平和、安定、人間性の時が来ています。

【翻訳前の記事（英語）】

http://www.ipsnews.net/2021/09/afghanistans-girls-need-unwavering-support-education/?utm_source=rss&utm_medium=rss&utm_campaign=afghanistans-girls-need-unwavering-support-education&fbclid=IwAR0bnhTcdQl0cgwKRMzM-21_8DoGMKqLC-Yp1BgXPJ4F30vyflhCewsoiGo

